



ムスカリ

撮影日：令和2年4月12日

撮影場所：秋田市民家敷地

目次

生産現場情報：JA 青年部活動をけん引する若手農業者

～秋田県農業協同組合青年部協議会委員長 佐藤 岳杜さん～・・・P2

営農支援情報：＝野菜＝春の管理作業のポイント・・・・・・・・・・・・・・P3

ご紹介：「秋田県産ねぎGo! Go! 25億円」達成記念式典・・・・・・・・・・・・P4～5

令和2年度6次産業化担当者研修会開催・・・・・・・・・・・・・・P6

お知らせ：春の農作業安全月間が始まりました・・・・・・・・・・・・・・P7

J A 青年部活動をけん引する若手農業者

～秋田県農業協同組合青年部協議会委員長 佐藤 岳杜さん～

1. 就農の経緯

佐藤岳杜（さとう たけもり）さんは、大館市比内町の独鈷（とっこ）に住む1983年（昭和58年）生まれ（現在満37歳）の若手農業経営者で、父母、祖父母を含めて8人家族で2児（男1人、女1人）の父親です。

大学を卒業後、県外の銀行に5年間勤務した後、10年前に実家のある大館市比内町にUターンして就農しました。中堅の銀行マンとして働いていましたが、両親の高齢化に伴いいずれ実家の農業はやめざるを得ない状況になるのは忍びなく、農業経営がある程度の規模だったこと、さらにはふるさと秋田への強い思いなどもあり、一念発起し親元での就農という形で農業へと飛び込みました。



佐藤 岳杜さん

2. 農業経営の概要等

農業経営の概要（令和2年）は、水稻20ha（うち直播1ha）、やまのいも60a、枝豆30aのほか、花き（デルフィニウム）をハウス4棟（約1ha）、ホウレンソウ5a、アスパラ菜5aの複合経営を展開しています。

栽培にあたって心がけていることは、収量性・収益性の追求はもちろんですが、何よりも消費者の目線を重視した高品質で安全・安心な農作物生産です。

比内町独鈷地区も他と同様に後継者不足の構図は変わりなく、「人・農地プラン」の具現化に向けてスマート農業の導入も視野に入れながら、若手農業者2名で地域農業を牽引しています。

3. J A 青年部活動

大館市認定農業者協議会理事、J A あきた北総代などの役職のほか、消防団員として地域活動にも熱心な若手農業者です。

さらに、昨年4月からは秋田県農業協同組合青年部協議会委員長として青年部活動の先導を担っています。20代の若手会員が少ないのが悩みですが、コロナ禍で一定の制約の中でも、全県の交流を深めてそれぞれの特色をもつ県内13JAの考えをも取り入れながら、会員各々が農業経営に活かせるような活動を展開していきたいと語ってくれました。

= 野菜 = 春の管理作業のポイント

今年の冬は県南地区を中心に積雪量が多く、果樹の枝折れやぶどう棚、パイプハウスの倒壊など大きな被害となりました。3月は県南地区で雪解けが遅れたものの、気温は平年より高い日が続いたことから春の訪れが早くなりました。これから野菜栽培が本格的に始まりますが、育苗中の苗の温度管理を徹底し、健苗育成に努めてください。

【トマト】

- ◎育苗期に極端な低温に遭うと、低段花房にチャック果、窓あき果などの障害果が発生しますので夜温は10℃以下にならないよう保温してください。また、ハウス内は午後、気温が20℃より下がらないうちに閉めてください。
- ◎定植適期の目標となる苗は、草丈30～35cm、茎の太さ7～8mm、1段花房が1～2花咲いた頃です。
- ◎活着を促進するためにマルチ利用に加えてトンネル被覆による保温、または補助暖房の準備を行い、地温15℃以上を確保してください。



育苗中のトマト

【夏ネギ】

- ◎春播き育苗の場合は目標とする収穫期に合わせハウス内でチェーンポット育苗します。
- ◎定植時の苗の大きさは草丈20cm程度、葉数2～2.5枚、太さ2.5mm程度で根鉢が十分形成されていることが目安です。



チェーンポット苗の定植作業

- ◎定植は畝幅90～100cm、深さが地表面から15～20cmの植え溝にチェーンポット苗を「ひっぱりくん」で平行に引っ張りながら行います。また、植え付けにあたってはチェーンポットの根鉢が土で隠れるようにしてください。

【アスパラガス】

- ◎消雪後、萌芽の20日前を目安に堆肥と基肥を畝間（通路）に散布し、軽く中耕します。肥量は栽植後の経過年数に応じ加減してください。
- ◎施肥後、雑草対策として萌芽前（雑草発生前～発生始期）にロロックス（除草剤）か、萌芽前～萌芽始期（雑草発生前～雑草4、5葉期）までにセンコル水和剤（除草剤）を散布します。
- ◎4月から5月の始めにかけては晩霜による若茎の被害が心配されます。凍霜害による被害が発生したら無駄な養分を消費させないため、早期に被害茎を地際から除去してください。



一斉に萌芽したアスパラガス

「秋田県産ねぎGo!Go!25億円」達成記念式典

あきた園芸戦略対策協議会（事務局：JA全農あきた）は3月15日、平成30年度に設定した秋田県産ねぎの目標販売金額25億円達成を記念し「秋田県産ねぎGo!Go!25億円」達成記念式典を開催し、秋田県の佐竹敬久知事、県内各JAの組合長、JA全農あきたの職員らが出席しました。



「秋田県産ねぎ」については、平成30年度に「令和2年度に販売金額25億円」の目標を設定し、昨年の12月21日に目標額を達成しました。3月5日時点のねぎの販売金額は26億5000万円と目標を大きく上回っています。

JA全農あきた運営委員会の齊藤一志会長は「秋田県の園芸メガ団地事業の全県への普及による効果で作付け拡大、夏ネギ栽培の普及など他県にも例のない取り組みにより、大幅な生産量・販売量の拡大が図られている。今後もオール秋田体制でさらなる生産・販売の拡大を図っていきたい」とあいさつしました。





産地代表としてJ A あきた白神の佐藤謙悦組合長に感謝状を渡しました。佐藤組合長は「今後もJ A グループが魅力を発信し、日本一の産地を誕生させたい」と抱負を語りました。



また、佐竹敬久知事は「新型コロナウイルスで国内市場が混迷する中で、3年で目標を達成できたことは、生産者・農業関係・行政が一体となって取り組んだ成果。農業は秋田の土台であり、農業の発展なくして秋田の発展はない。これからも秋田の農業をリードしてほしい」と激励しました。

J A 全農あきたは、今後もオール秋田体制のもと、生産面積の拡大によるロットの確保、品質向上、ブランド力向上につとめ、令和5年には販売額30億円達成を目指します。



令和2年度6次産業化担当者研修会開催

J Aグループ秋田県域営農センターは3月18日、6次産業化へのスキルアップとモチベーションアップを目的とした研修会を開催しました。J A直売所担当者、生活指導員や関係者約20名が参加しました。



秋田県よろず支援拠点 木村まゆみコーディネーター

研修では、秋田県よろず支援拠点木村まゆみコーディネーターから「秋田の味を全国へ！～販売エリアに合わせた食品加工技術の習得」と題した講演をおこないました。消費期限を延ばし県外にも秋田県の商品を販売するための、真空パックの技術として、包装資材や乾燥剤など、食品に合わせた組み合わせがあることや、商品パッケージの変更、店舗での商品の飾り方によって売上げの向上につながった事例などを紹介し、参加者は熱心に耳を傾けていました。

次に全農本所営農企画部が、県外直売所の事例を紹介し、お客様の導線に合わせた商品の配置の仕方などを説明しました。参加者からは「商品の配列などに困っていたので参考になった」「直売所を改善し、売上げアップにつながった事例などを知りたい」などの声が聞かれました。



WEBにて研修会に参加 ~全農本所営農開発部~

◆春の農作業安全月間が始まりました◆

運動期間：2021年3月1日～5月31日

JAグループでは、「春の農作業安全月間」を定め、組合員とJA役職員の農作業安全に係る意識を啓発し、農作業事故防止の徹底を図っています。



2021年 春の農作業安全月間

JAグループ



Za・あぐりふおーむ
Zennoh-akita agriculture+reform

JA全農あきた営農情報誌 Za・あぐりふおーむ
第14号 令和3年4月5日発行

編集・発行 JA全農あきた営農支援部営農支援課 〒010-8558秋田市八橋南2丁目10番16号 018-864-2462

Za・あぐりふおーむのメール配信申込み受付中です！

「Za・あぐりふおーむ」は月1回のペースで発行（原則として毎月5日、無料）しています。メール配信をご希望の方は、JA全農あきた営農支援部営農支援課（E-mailアドレス：zz_ak_einousien@zennoh.or.jp）まで、住所（又は所属機関・団体名）・氏名・E-mailアドレスをお知らせください。